

慶雲館

長浜駅から南へ徒歩 5 分ほどのところにある慶雲館は、日本を代表する造園家が設計した日本庭園のある御休所です。この迎賓館は、明治天皇(1852–1912)とその妻である昭憲皇太后(1849–1914)を迎えるために建てられ、1887 年に長浜に立ち寄られました。天皇皇后両陛下は滞在中、肘掛け椅子に座られ、白い布で布張りされたその肘掛け椅子は、上の部屋に保存されています。

慶雲館は 4 か月弱で建設され、天皇が来られる日の朝に完成したと言われています。繊維業、輸送業、銀行業に携わっていた長浜の著名な実業家である浅見又蔵(1839–1900)が私費を投じて建設しました。

庭園の特徴には、枯池、茶室、特徴的な巨石や石灯籠のコレクションがあります。庭園は、京都の平安神宮などを設計したことで知られる造園家の七代目小川治兵衛(1860–1933)によって、1912 年に造られました。

1952 年より、慶雲館では、毎年 1 月上旬から 3 月上旬にかけて盆梅展[※No.18 [長浜盆梅展へのハイパーリンクを挿入](#)]を開催してきました。樹齢 400 年の木々が展示されるなど、毎年数万人の来場者を集めている人気の展示会です。